

豊予交流

愛媛県きほくちょう鬼北町編

大分県側の9自治体と豊予海峡を挟んだ対岸の愛媛県側9自治体間で「愛媛・大分市町村連絡会議」を立ち上げ、圏域同士の新たな交流がスタートしました。

コラボ企画としてお互いの広報誌の相互掲載を行い、それぞれの歴史・文化や、食の魅力を紹介しています。

鬼北町の概要

鬼北町は、愛媛県西南地域の内陸部に位置する、人口約9,800人の自然豊かなまちです。平成17年に広見町と日吉村の合併により「鬼北町」が誕生しました。全国の自治体名で唯一「鬼」の字が入ることから「鬼のまちづくり」に取り組んでいます。今回は、観光施設である武左衛門一揆記念館と国登録有形文化財の鬼北町庁舎を紹介します。



ゆるキャラ「きほくん」

ぶざえもん いっき 武左衛門一揆記念館



武左衛門一揆とは、寛政5年(1793年)に伊予吉田藩で起こった全国的にも有名な百姓一揆「吉田騒動」のことです。日吉地区(上大野村)出身の武左衛門がこの一揆の中心人物であったことから武左衛門一揆と呼ばれています。

一揆は、領内83カ村の村々から約9,600人の農民が決起し、願い出た要求の全てが認められるという、歴史上稀にみる農民側の完全勝利で幕を閉じました。しかし、この一揆の指導者・武左衛門は、3年後に捕縛され、処刑されます。自らの命を犠牲にして多くの農民を救ったこの武左衛門の「義民の精神」は、地域の人々に受け継がれ、まちおこしの原動力となっています。

武左衛門一揆記念館では、一揆を再現した映像などを通して、当時の生活や一揆の顛末てんまつを学ぶことができます。

鬼北町庁舎

日本におけるモダニズム建築(近代主義建築)のパイオニアとして知られるチェコ出身の建築家アントニン・レーモンド。鬼北町庁舎は、レーモンドが率いたレーモンド建築設計事務所(当時)が設計し、昭和33年に旧広見町庁舎として建設されました。明快なゾーニングによる平面計画とそれに対応した構造計画、当時の最新技術であるHPシェル構造の屋根を採用するなど、モダンなデザインが特徴です。シェル構造の導入は、国内で二例目であり、最初期の事例として高く評価されています。平成24年には、国登録有形文化財に指定されました。平成27年から耐震化を含む大規模改修が行われ、その改修内容は、BELCA賞や公共建築賞を受賞するなど、各方面から高く評価されています。

